

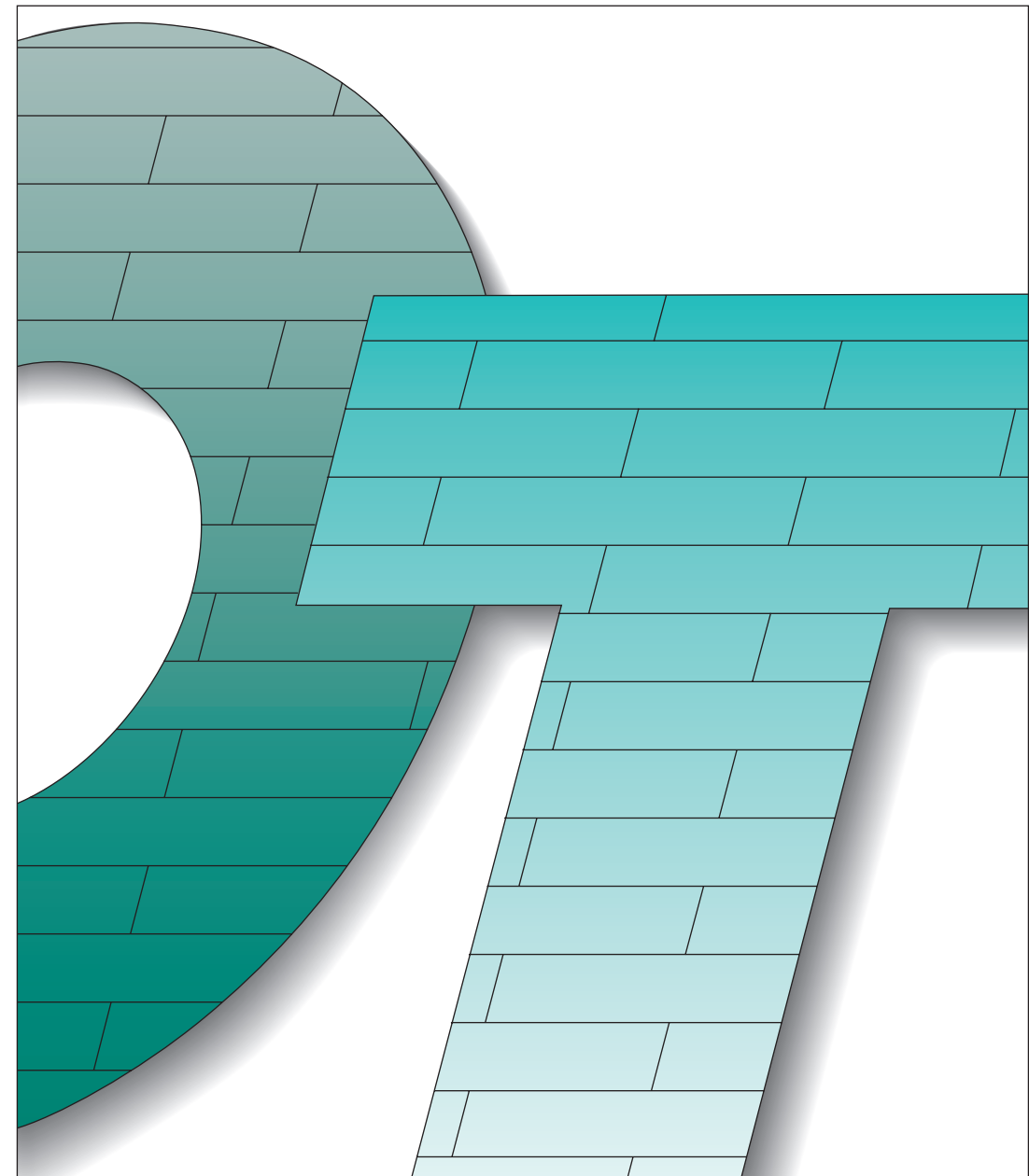


オーテ

Wジョイント

本はぜ掴み込み

標準施工説明書



■製造元

 大谷工業株式会社

〒194-0035 東京都町田市忠生2-25-1
TEL.042(791)0946(代)
FAX.042(791)0651

■代理店

製品規格

1) 本はぜWジョイント工法

雨水の浸入をシャットアウト。

嵌合部は雨水の浸入を、ハゼの差し込み部と折り曲げ部の2か所で防ぐ、合理的なWジョイント工法なので、毛細管現象による雨水の浸入を完全に防御します。

あばれがなく、いつまでも美しさを保ちます。

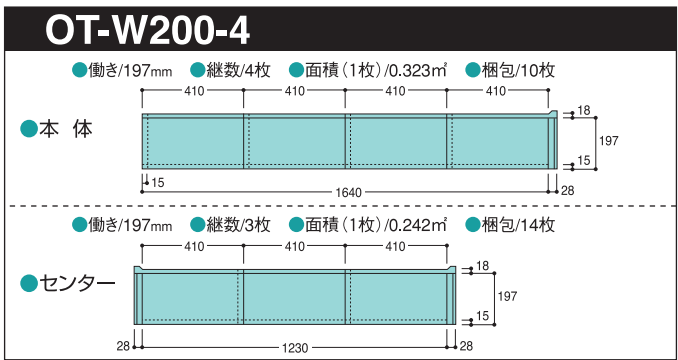
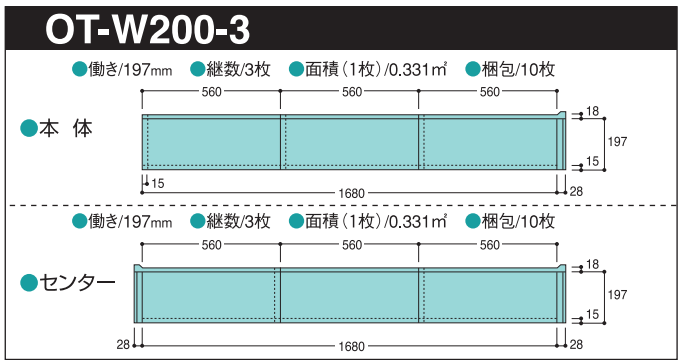
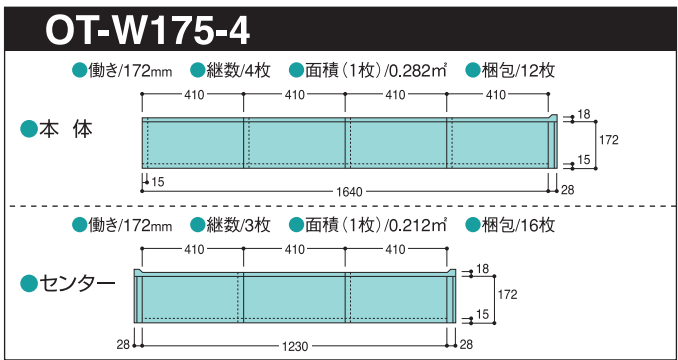
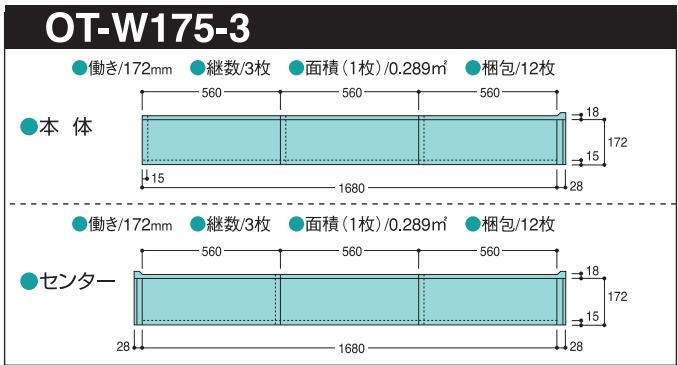
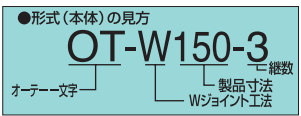
本ハゼ部とWジョイント部がエキスパンションの役目を果たし、施工後の“あばれ”を解消して、いつまでも優雅な一文字葺の美しさを保ちます。

ワンタッチでスピーディーな施工。

施工はハゼ部に差し込むだけで、誰でも簡単にジョイントできるワンタッチ作業で美しく仕上がり、面倒なつかみ込み作業を一掃、施工時間を大巾に短縮します。

使い方いろいろ、多彩なバリエーション。

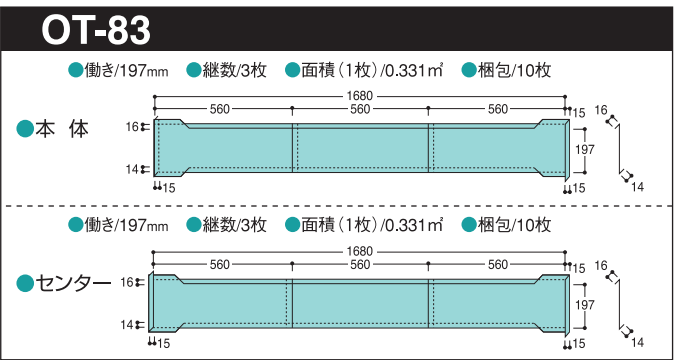
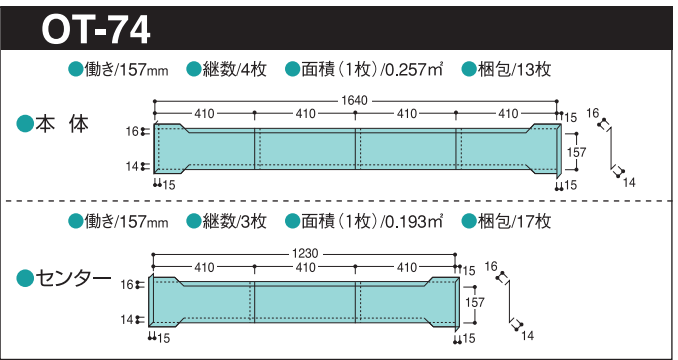
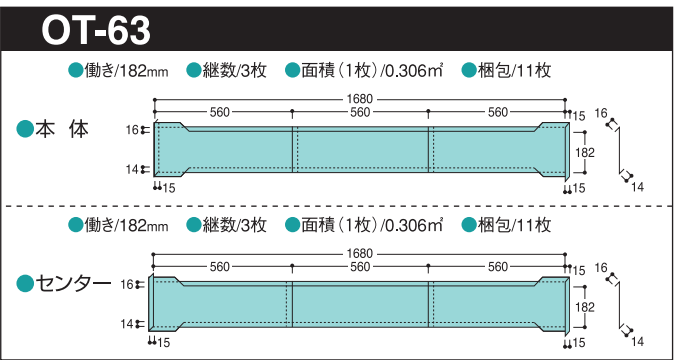
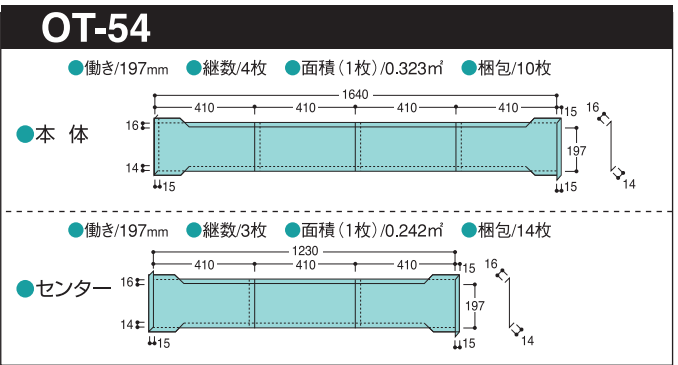
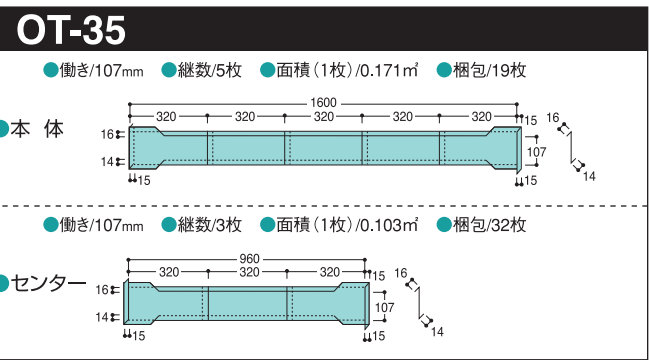
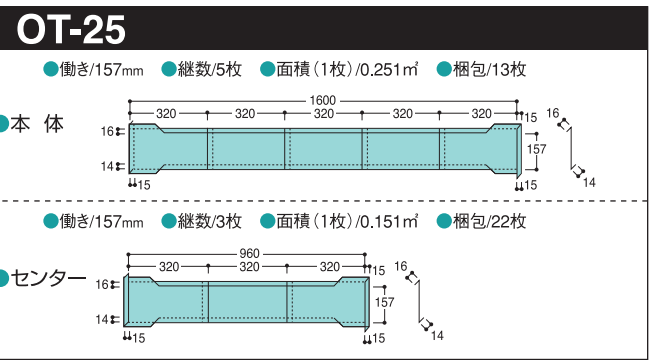
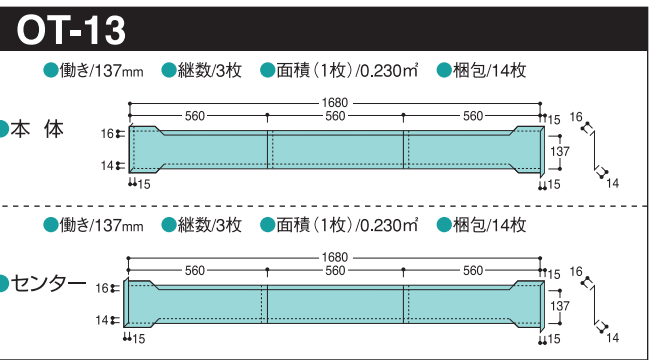
周囲の環境・用途・建物の規模や予算などに応じ、3タイプ(OT-W150、175、200)の各シリーズに、継数のバリエーションを加えました。設計プランに合わせてお選び下さい。



2) 本はぜ掴み込み工法

本ハゼ工法には、掴み込みタイプと切り子タイプの二種類があります。一コマ当りの寸法が豊富で、建物のスタイルや規模、周囲の環境などによって、好みのサイズが選べます。施工はたてハゼ・よこハゼを加工していますので、本モノの一文字葺が手軽に、美しく仕上がります。

形式 本体の図は右葺(右葺・左葺・センターがあります。)



■Wジョイント工法 ●右葺・左葺・センターがあります。

形 式	区 分	働き巾×長さ (mm)	コマ長さ×コマ数 (mm)×(枚)	1枚当り 面積(m ²)	1㎡当り (枚数)	3.3㎡当り (枚数)	1梱包 (枚数)
OT-W150-3	本 体	147×1,680	560×3	0.247	4.05	13.4	14
	センター	147×1,680	560×3	0.247	4.05	13.4	14
OT-W150-4	本 体	147×1,640	410×4	0.241	4.15	13.7	14
	センター	147×1,230	410×3	0.181	5.52	18.2	18
OT-W150-5	本 体	147×1,600	320×5	0.235	4.26	14.0	14
	センター	147×960	320×3	0.141	7.09	23.4	23
OT-W175-3	本 体	172×1,680	560×3	0.289	3.46	11.4	12
	センター	172×1,680	560×3	0.289	3.46	11.4	12
OT-W175-4	本 体	172×1,640	410×4	0.282	3.55	11.7	12
	センター	172×1,230	410×3	0.212	4.72	15.6	16
OT-W200-3	本 体	197×1,680	560×3	0.331	3.02	10.0	10
	センター	197×1,680	560×3	0.331	3.02	10.0	10
OT-W200-4	本 体	197×1,640	410×4	0.323	3.09	10.2	10
	センター	197×1,230	410×3	0.242	4.13	13.6	14

■本ハゼ工法 ●本体は掴み込みと切り子ができます。●右葺・左葺・センターがあります。●規格以外の特注サイズも生産します。

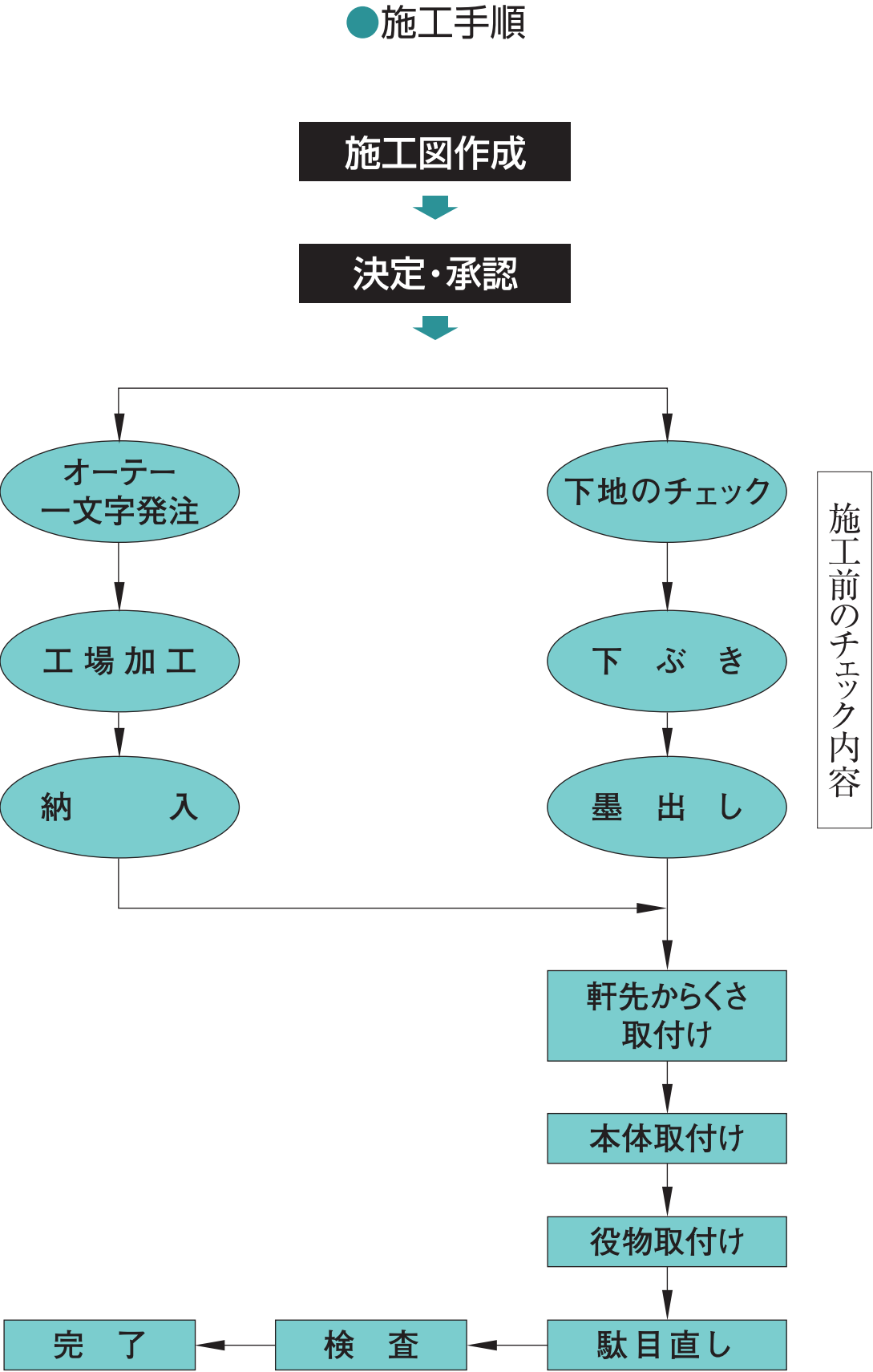
形 式	区 分	働き巾×長さ (mm)	コマ長さ×コマ数 (mm)×(枚)	1枚当り 面積(m ²)	1㎡当り (枚数)	3.3㎡当り (枚数)	1梱包 (枚数)
OT-13	本 体	137×1,680	560×3	0.230	4.35	14.3	14
	センター	137×1,680	560×3	0.230	4.35	14.3	14
OT-25	本 体	157×1,600	320×5	0.251	3.98	13.1	13
	センター	157×960	320×3	0.151	6.62	21.9	22
OT-35	本 体	107×1,600	320×5	0.171	5.85	19.3	19
	センター	107×960	320×3	0.103	9.71	32.0	32
OT-54	本 体	197×1,640	410×4	0.323	3.10	10.2	10
	センター	197×1,230	410×3	0.242	4.13	13.6	14
OT-63	本 体	182×1,680	560×3	0.306	3.27	10.8	11
	センター	182×1,680	560×3	0.306	3.27	10.8	11
OT-74	本 体	157×1,640	410×4	0.257	3.89	12.8	13
	センター	157×1,230	410×3	0.193	5.18	17.1	17
OT-83	本 体	197×1,680	560×3	0.331	3.02	10.0	10
	センター	197×1,680	560×3	0.331	3.02	10.0	10

■材料と板厚

銅 板	緑青・黒色銅板	硫化いぶし銅板	※サビナシルーフ(SR-W)	屋根用ステンレス
0.3 0.35 0.4	0.3 0.35 0.4	0.3 0.35 0.4	0.5	0.35

※印は、本はぜ工法のみ。

標準施工計画

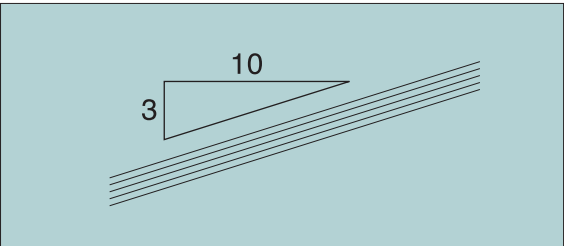


標準施工法

1) 下地のチェック

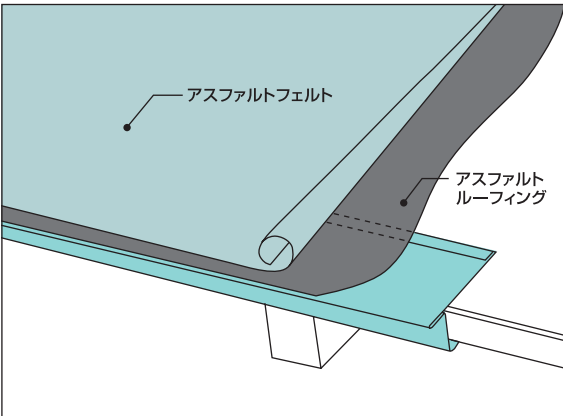
- 屋根勾配 ➡ 通常3寸勾配 (3/10) 以上が必要です。
- 木下地 ➡ 野地板15mm厚以上、耐水合板12mm厚以上とし、十分乾燥したものを、すき間なく張って下さい。使用する釘は銅、またはステンレススクリュー釘 #12×25以上のサイズを使用して下さい。
- 硬質木片 ➡ 板厚18mm以上でステンレス製タッピングセメント板 ビス止めにして下さい。

パーライト ➡ 最低30mm、平均40mm程度とし、銅平釘、またはステンレス平釘 φ2.6×25mm以上のものを使用し、銅板葺仕様の配合として下さい。



2) 下ぶき

- 屋根勾配3/10以上の場合、アスファルト・ルーフィング 22kg以上、さらに、アスファルトフェルト17kg重ね張りにして下さい。
- 重ね代は縦、横とも流れ方向100mm程度とし、しわやたるみのないよう軒先の先端から葺き始めて下さい。

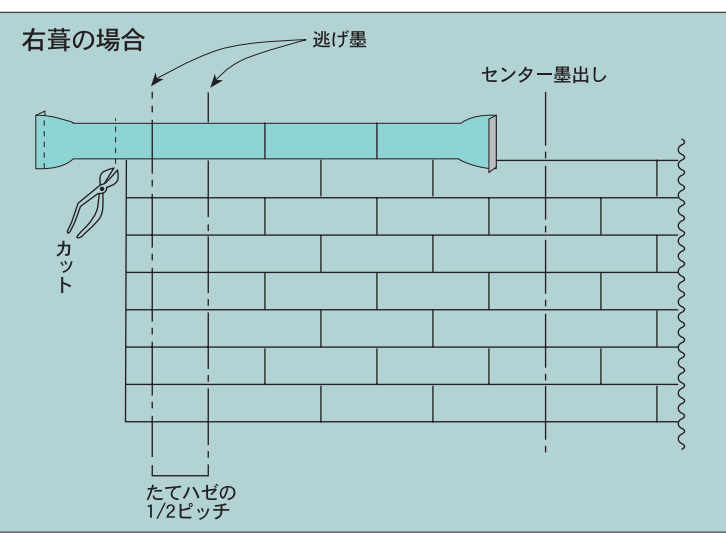


3) 墨出しの方法

● 軒先方向の割付け

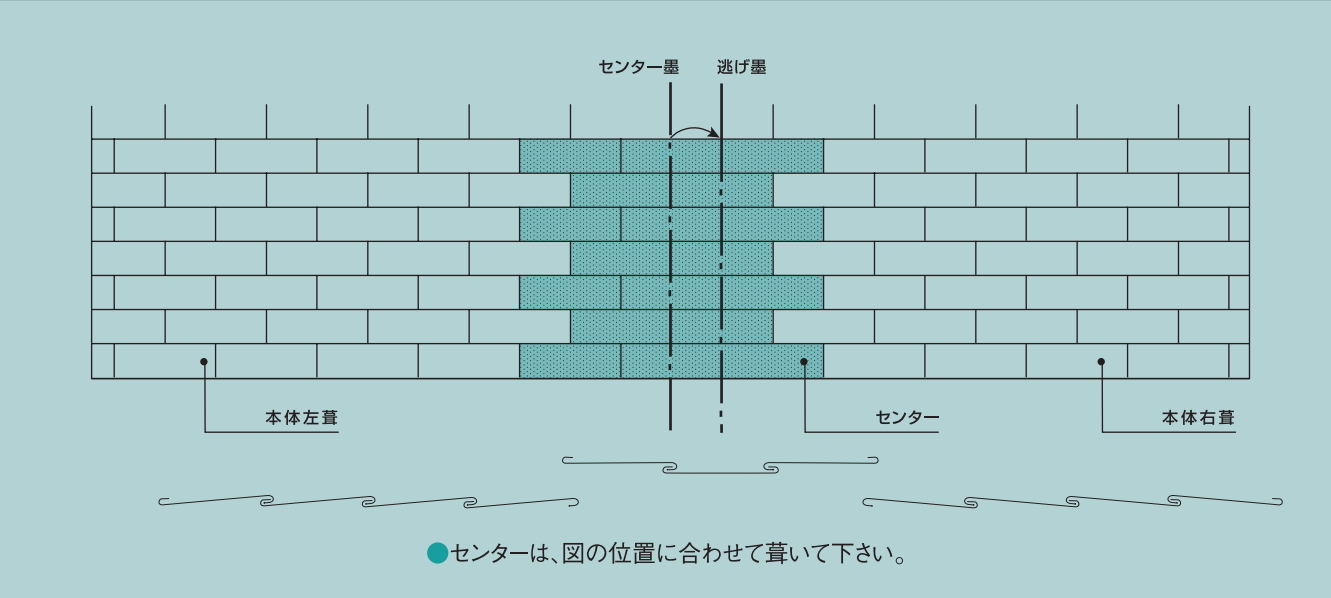
① 右葺だけで葺く場合

まず、センターの墨出しをおこない、センターより、ハゼのピッチの位置に、ケラバ側に逃げ墨を出して下さい。(左葺の場合は、右葺の逆の施工となります。)



② センターより左右に葺き分ける場合

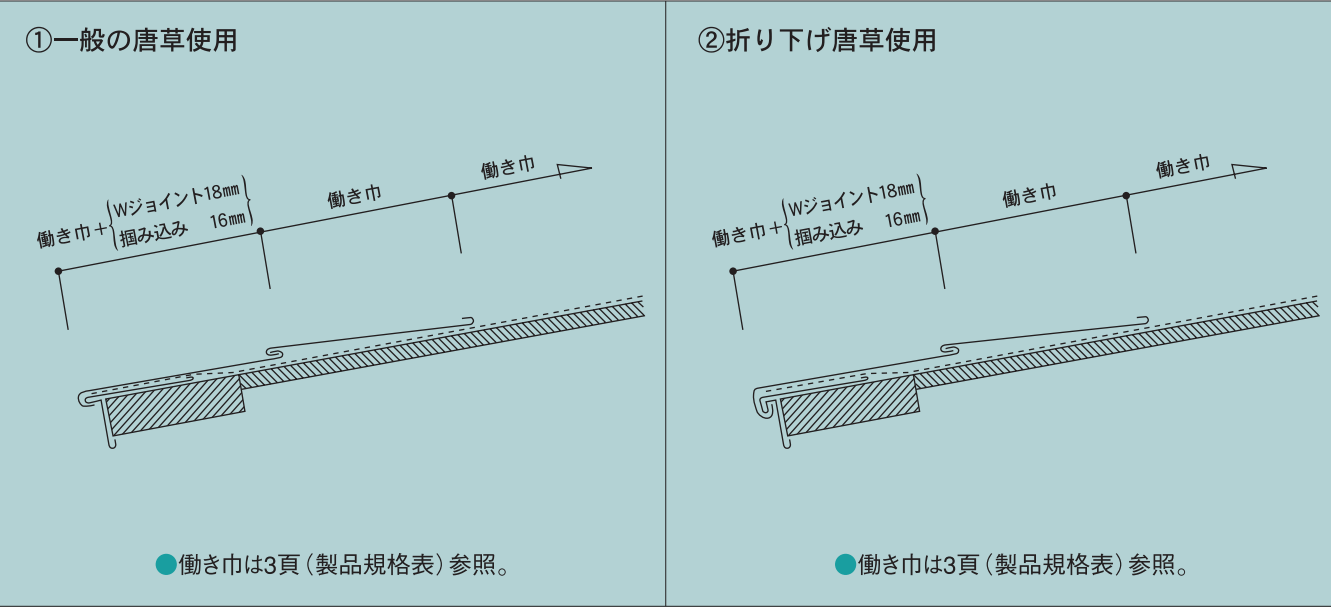
割付けの中心から左右に葺き分ける場合は①の場合と同様に、センター墨と半コマずらした逃げ墨を出して割付けると美しく仕上がります。



● 登り方向の割付け

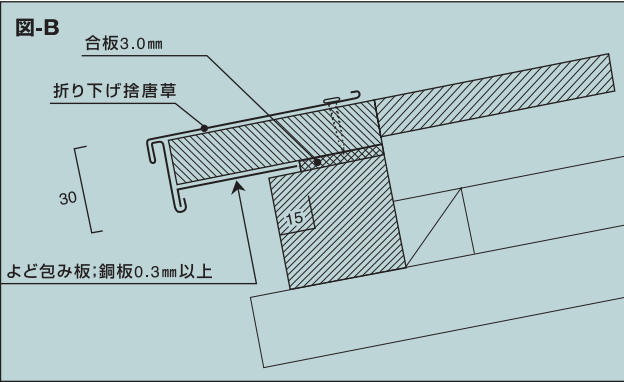
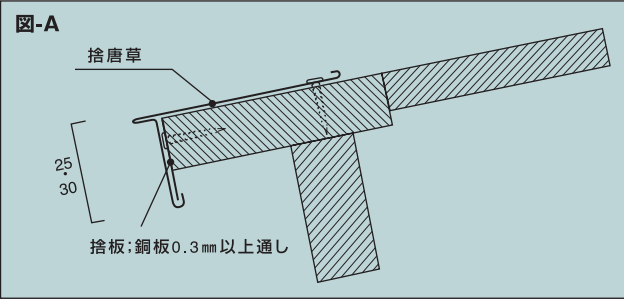
割付けは、美しく葺き上げるために、取付ける前に必ずおこなって下さい。

- 一段目の墨出しは、唐草の先端から下ハゼのハゼ代分、Wジョイントで18mm、掴み込みでは16mmプラスして割付けて下さい。
- 二段目以降は割付け寸法で墨出して下さい。



軒先唐草の取付け

軒先唐草には、一般的な捨唐草（図-A）と折り下げ捨唐草（図-B）、化粧唐草、化粧折り下げ唐草の4種類があります。折り下げ唐草は、先端部の剛性が高まり耐風性もよく、水切り効果も高くなります。また、どちらの場合も、あおりを防ぐために、捨板、または、よど包み板を通して取り付け、それにひっかけて、直接下地に釘で止めて下さい。



吊子の取付け

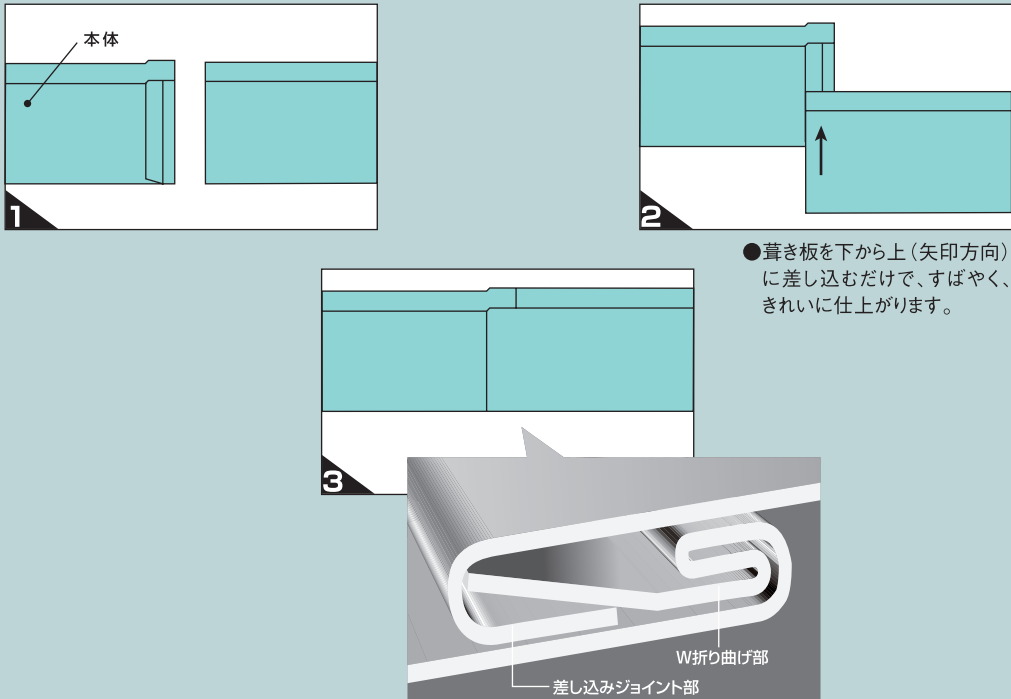
吊子のピッチは、180mmを基準にしていますが、施工条件や地域の状況によって、その都度ご検討下さい。

本体取付け

1) Wジョイント工法

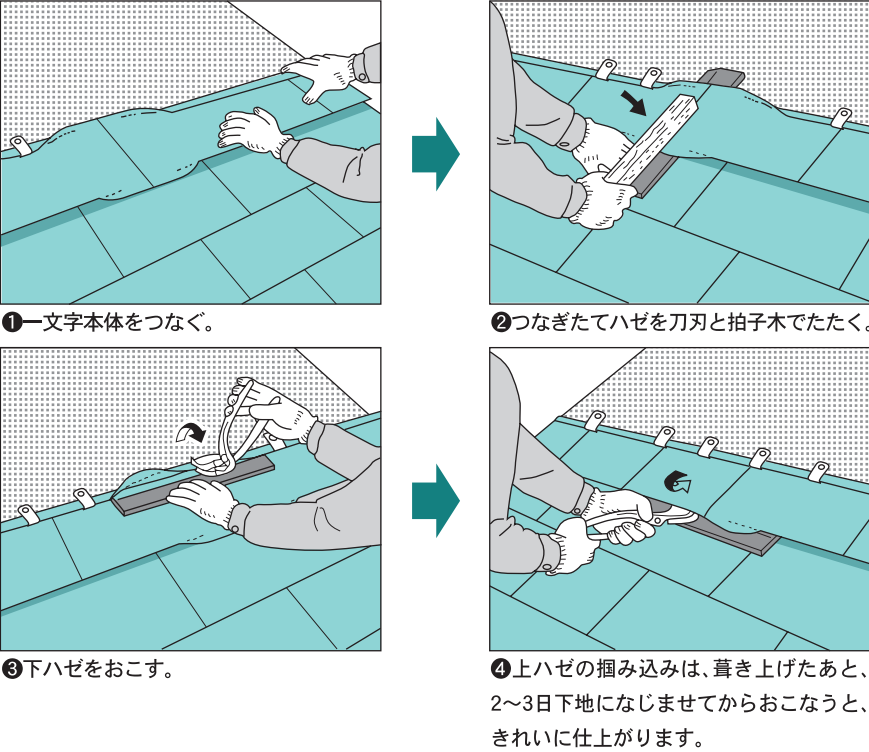
Wジョイント工法は、本体にエキスパンションを一体化した形になるため、捨板を入れる必要がなく、施工も従来のつかみ、刀刃、拍子木をつかった作業が省略できるので、スピーディ、かつ、美しく仕上がります。

● 施工手順



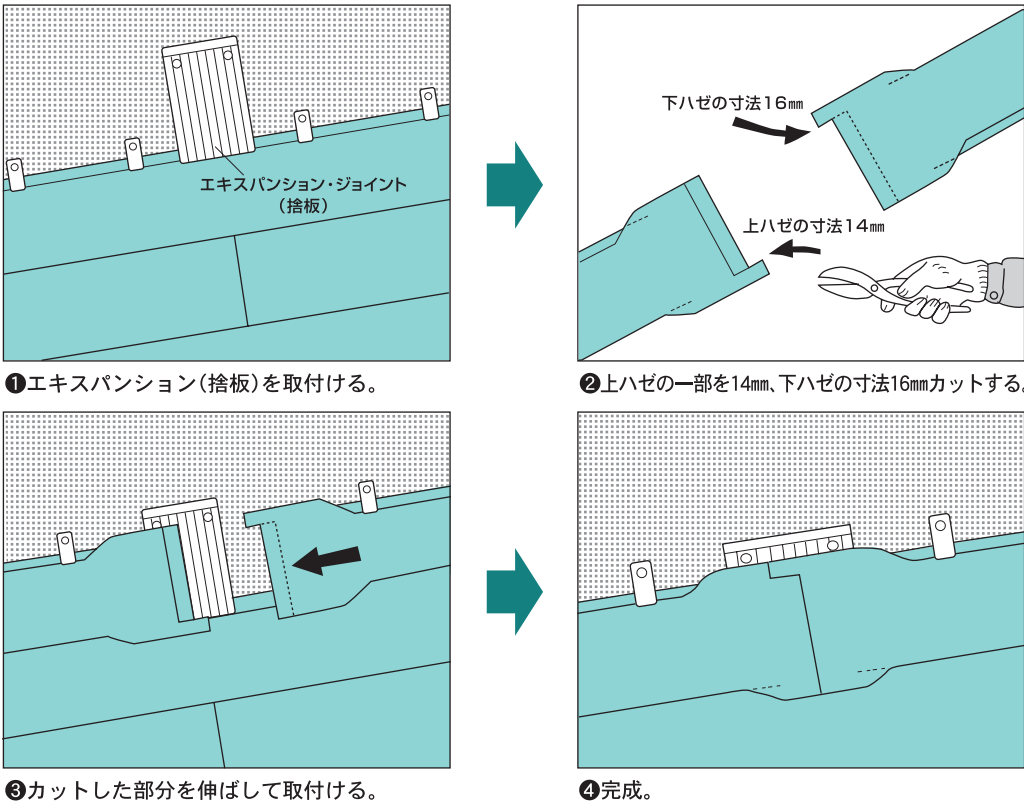
2) 本はぜ掴み込み工法

● 施工手順



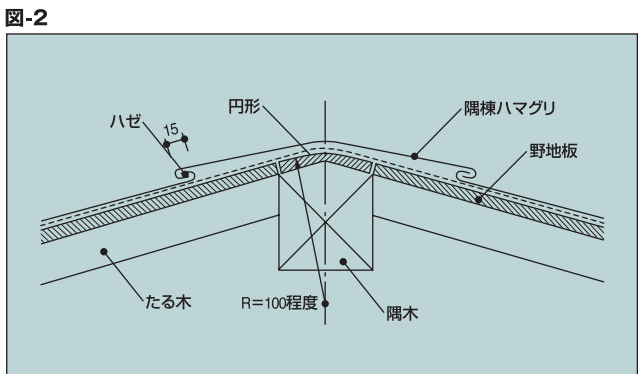
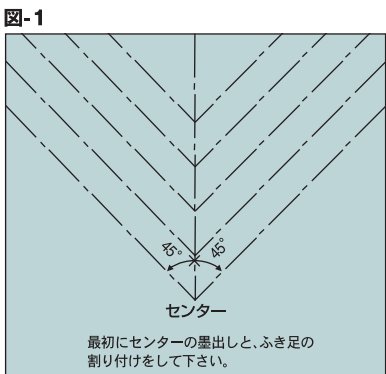
3) エキスパンション（捨板）工法

熱膨張の伸縮による「あばれ」を完全に防ぐため、エキスパンション・ジョイント（捨板）工法をおすすめします。熱膨張による伸縮をスムーズにおこなうために、本体3枚につき1か所、たてはぜの一部をカットし、エキスパンション（捨板）を入れて施工して下さい。

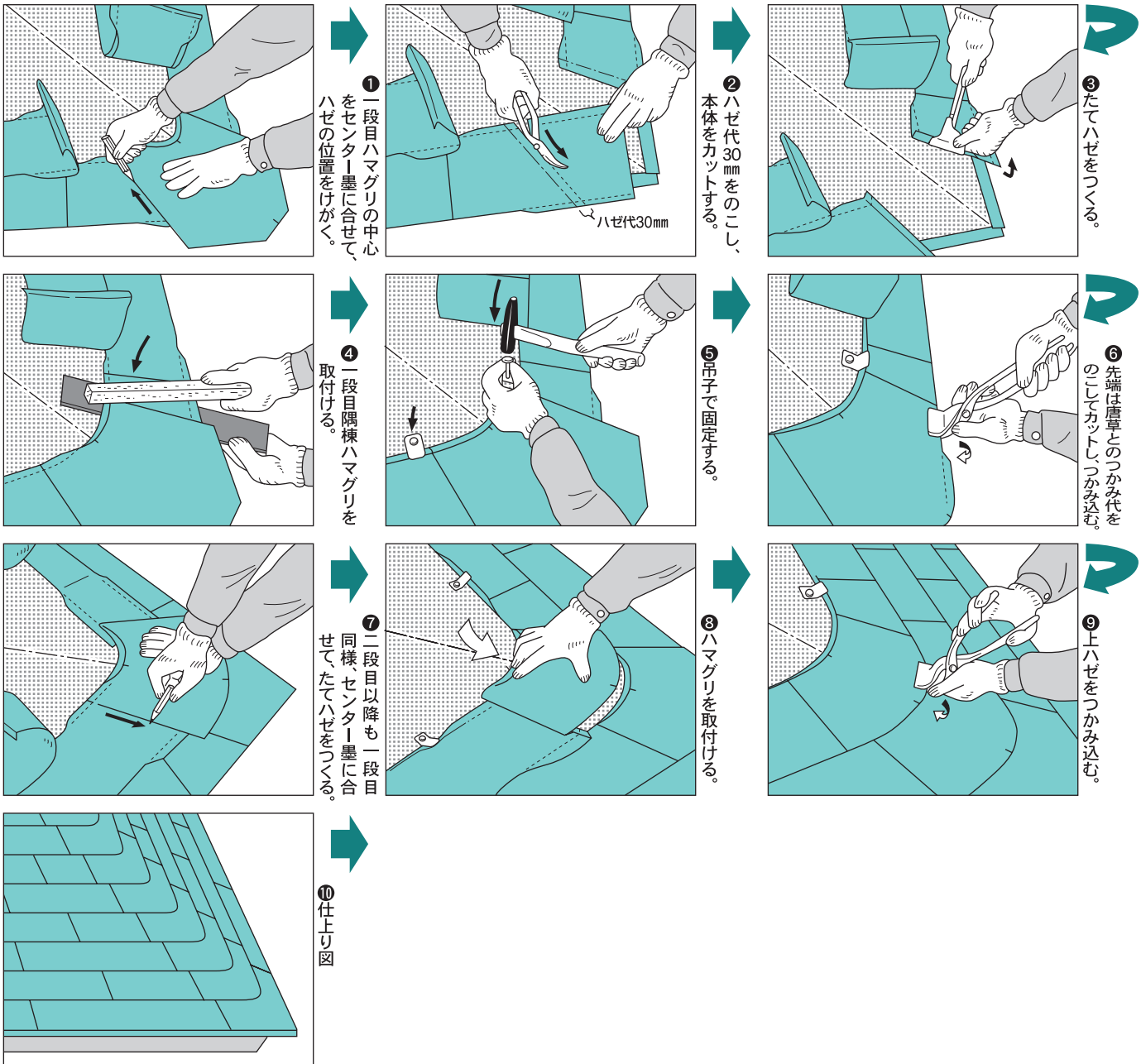


隅棟ハマグリ

ハマグリは、屋根の勾配に合わせ、受注生産しますので、屋根勾配をお知らせ下さい。
隅棟は水平面でセンターより左右共に45°角で、同じ勾配にして下さい。(図-1参照)
野地板のつきつけ部は100R程度のRをつけて下さい。(図-2参照)
材質は銅板、緑青・黒色銅板、硫化いぶし銅板の3種類です。



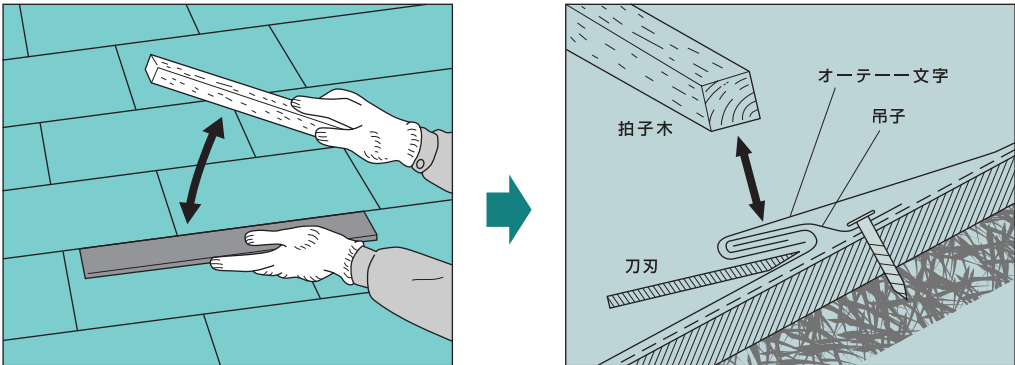
●施工手順



仕上げ

はぜならし

ハゼのクリアランスを一定にし、毛細管現象による水の吸い上げを防ぐハゼならしは、必ずおこなって下さい。



刀刃をハゼの間に差し込み、拍子木でたたいて、クリアランスを一定にします。

■設計・施行のポイント■

- 屋根勾配は、原則として3/10以上とします。
- 野地板は、釘を十分に保持するために、構造用合板厚さ12mm以上(木板では厚さ15mm以上)をべた張りして下さい。
- 下ぶきの防水紙は、アスファルトルーフィング22kg以上、さらに重ね張りでアスファルトフェルト17kg以上をご使用下さい。
- 屋根板を取付ける吊子は、風圧力に対して安全に設計して下さい。
- 風の強い所や屋根面の広い場合は、野地板を厚くし、吊子を十分に取付けて下さい。(熱による膨張で持ち上げられる場合に対しても同様です。)
- 屋根上は、できるだけ歩かないようにし、ハゼの上は絶対に踏まないようにして下さい。(ハゼがつぶれると、毛細管現象で雨漏りの原因になります。)
- 異種の金属と接触して併用すると、電食により一方が早く傷むので避けて下さい。(銅と鉄・アルミ・亜鉛を接触させると、後者が腐食します。)
- しっくいやモルタル・リシンなどで、汚される恐れのあるところでは、養生に注意して下さい。
- とくに、軒先は繊細にでき上がっていますので、はしごや物を立てかける場合は気をつけて下さい。